

ESD-J2013 年度 事業報告

<2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日>

I. 概要

2013 年度は、ESD の 10 年総括会合を翌年に控え、ユネスコや日本政府においてもようやく具体的な準備が 始まり、広報活動などにもわかに活発化した。そして、文部科学省、環境省においては、2015 年以降の ESD 推進についての議論がスタートした年でもあった。

ESD-J は、10 年の最終年を前にして、2015 年以降の具体的な ESD 推進の仕組みを提案することは組織に課された最後のミッションととらえ、地域の ESD 推進を底支えするプラットフォームとしての「ESD 全国センター」構想の具体化と働きかけの強化を最重要課題としつつ、以下の 6 本の柱で事業に取り組んできた。

1. 2014 年 ESD 世界会議および 2015 年以降の推進体制づくりに向けた準備および提言活動
2. 地域における ESD 推進とコーディネーターの社会化推進
3. 学校と地域が連携した ESD 推進の仕組みづくり
4. 国際ネットワーク推進
5. 震災復興と ESD をつなぐ
6. 普及啓発、情報収集・提供およびインフラ構築

これまで検討してきた 2015 年以降に残すべき ESD 推進の仕組みを「ESD 全国センター構想（仮）」として図示化・公開することで、ESD 推進機関や行政機関、議連、産業界、関係者との対話がスタートしたことは、2013 年度の最大の成果である。そして政府関係者や企業関係者からも支持が表明され、必要性を理解する人たちの数が増えてきていることは心強い限りである。

一方、組織の経営面では、大きな事業が受託できなかったことから、組織の体制強化を進めることができなかった。とはいえ、なんとか赤字を最小限に抑えることができたことで、2014 年の組織運営を支える繰越金は残すことができた。

II 事業活動

1. 2014 年 ESD 世界会議および 2015 年以降の推進体制づくりに向けた準備及び提言活動

【2014 年に向けた目標】

- ・ ESD に関するユネスコ世界会議およびその関連イベントにおいて、これまで ESD に取り組んできた多様な主体の活動と、2015 年以降の ESD 推進の仕組みについて、オールジャパンで発信できる場が作られている。
- ・ 2015 年以降の ESD 推進の仕組みのイメージが関係者に共有されており、そのハブとなる「ESD 全国センター」実現に向けた準備が始まっている。

【事業内容】

1) 2014年のESD世界会議をオールジャパンで迎える準備

- ・「ESD地球市民会議」および「ESDテーマ会議」（2013年10月18・19日、於岡山コンベンションセンター）、「ESDラーニング・プログラム」（2014年1月13日、於愛知県産業労働センター）を共催した
- ・「地球市民村事業」開催について、文科省・環境省等への働きかけを行った

【成果】多様な主体の参加による「ESDを推進するために必要な機能」の議論を展開できた

【成果】2014年8月に文科省、環境省、国連大学の協力を得て「地球市民村事業」の開催が確定した

2) 2015年以降のESD推進体制の検討と提案

- ・官民協働のESD推進体制づくりについて理事懇談会や関連する会議などで意見交換・検討し、提案を作成。文科省、環境省、国会議員等へ働きかけた
- ・ユネスコのグローバル・アクション・プログラムへの提言作成とインプットを行った

【成果】環境省が2015年以降のESD推進策を検討する懇談会を立ち上げ、ESD-J理事2名、会員2名が参画した

2. 地域におけるESD推進とコーディネーターの社会化推進

【2014年に向けた目標】

- ・多様な分野のコーディネーターがESDの視点やスキルを身につけるESDコーディネーター研修のカリキュラムを確立するとともに、テキストブックを発行する。また、多様な分野のコーディネーターが学びあう場、ESDコーディネーターのネットワークが広がっている。

【事業内容】

1) ESDコーディネーター育成の事業化

- ・0JT型コーディネーター育成研修開発およびモデル実施（4地域：広島、茨城、岡山、北九州）を行い、コーディネーター育成研修の枠組みとカリキュラム全体像案を作成した
- ・1本5分程度のビデオ教材を開発した（4テーマ17本を制作・公開）
- ・ニューズレター「未来へつなぐ」を発行した（年2回、A4・8ページ、2000部）

【成果】ESDコーディネーター育成の基本的ツールを作成、研修の成果などを公表するウェブサイトの内容を充実することで、次年度への事業展開の基盤を作った。

2) 全国ミーティングの開催

- ・6月15-16日 岡山市との共催で“「未来へつなぐ」を現場で学ぶ～2014年のESDユネスコ世界会議と2015年以降のESDの推進に向けて～”をテーマに開催した（参加者のべ250名）

【成果】2014年に向けた情報共有を行い、ラストスパートへの盛り上がりを醸成した。また、公民館が地域のESDをコーディネートする役割を果たしている現場から、参加者は多くを学ぶことができた。

3. 学校と地域が連携した ESD 推進の仕組みづくり

【2014 年に向けた目標】

- ・教員向け、学校支援コーディネーター向けの、学校と地域をつなぐ ESD 研修を各地に展開するとともに、学校と地域の連携による ESD 実践事例の「見える化」が進んでいる。

【事業内容】

1) 学校と地域の連携による ESD の情報共有、研修の実施

- ・地域担当理事と会員が連携して各地で学校における ESD 実践普及のための研修を行うなどの取り組みは、全国的にも広がってきている。会員メーリングリスト等を通じて情報共有する動きの活性化は十分にはできなかった

2) 学校における ESD モデルカリキュラムの普及

- ・環境省の「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」において、学校における ESD 実践カリキュラムの公募選定業務およびモデル化業務を担った。また、各地の理事が、その地域展開段階の事業に携わった

【成果】2012 年度選定のモデルプログラムが地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) のウェブサイトにて公開され、またそれが全国 47 都道府県の実行委員会によって実践されることによって、地域で多様な主体の連携・協働を生み出すきっかけとなっている

4. 国際ネットワーク推進

【2014 年に向けた目標】

- ・NGO によるアジア ESD ネットワーク (ANNE) を設立する。また、国内外の ESD 推進に関する情報流通を支える体制が整っている。

【事業内容】

1) アジア ESD ネットワーク (ANNE) 構築に向けた取り組み

- ・ANNE 設立に向けての具体的な活動を起こすためのファンドレイズに取り組んだ。また、資金が得られたことを踏まえ、事業実施体制づくり、CEE (インド) との契約、岡山市への協力要請など、事業開始に向けた準備作業を行った

【成果】トヨタ自動車環境助成を「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成」プロジェクトで獲得することができた (700 万円、2014.1-2015.12)
資金獲得を踏まえ、国内外の事業実施体制が整った。モデル活動実施のため、インドの CEE との契約を締結した。また、10 月 8 日に岡山で予定する ANNE 開始式典・国際ワークショップの調整を進めた。

2) ESD に関する国際的な情報の収集・提供とそのための体制の強化

- ・ユネスコのグローバル・アクション・プログラム案の仮訳を公表し、それに対する意見募集、提案等に取り組んだ
- ・ESD-J の取り組みを海外へ発信するための体制を強化し、メーリングリストやウェブサイトを通して情報提供を行う体制づくりには着手できなかった

5. 震災復興と ESD をつなぐ

【2014 年に向けた目標】

- ・復興支援や被災地との交流からの学びを全国各地の ESD に生かす、また、ESD を震災復興のための人材育成に役立てる、といった双方向の ESD モデル実践が生み出されるとともに、防災教育・気候変動を含めた減災教育の視点を持った ESD の「見える化」が進んでいる。

【事業内容】

1) 被災地の復興・再生と持続可能な社会づくりをつなぐ ESD の情報交流強化

- ・全国ミーティングで災害教育をテーマとした基調講演、復興支援と ESD をテーマとした分科会を開催した
- ・『未来をつくる BOOK』の実践報告をウェブサイトで発信した
- ・ESD 地域ミーティングを岩手にて共催し、復興と ESD の関係性について議論した

6. 普及啓発、情報収集・提供およびインフラ構築

【2014 年に向けた目標】

ESD-J が 2014 年までに実現したい仕組みづくりに向けた取り組みや、各地の ESD 実践の広がりをきめ細かく発信していくことで、ESD をともに進める仲間が大きく広がっている。また、ESD 推進機関との連携により、ESD 関連情報がより入手しやすい仕組みが生まれている。

【事業内容】

1) ESD および ESD の 10 年に関するさまざまな動きの情報発信

- ・2014 年の準備状況や各地の動きなどを会員メーリングリスト、フェイスブック、ウェブサイトなどを通して発信した。とりわけ、メルマガやフェイスブック等との連動で、会員外への情報発信力を高めることができた
- ・「ESD レポート」をスリム化し、年 2 回発行した
Vol. 32 「ESD-J 全国ミーティング 2013 が岡山で開催！」2013 年 9 月 18 日発行
Vol. 33 「“国連 ESD の 10 年”の総括年がやってきた！」2014 年 3 月 12 日発行

2) ESD 普及のための研修・講師派遣

- ・愛知県の研修事業およびテキストブック制作の支援を行った
- ・環境省 ESD 紹介パンフレットおよび ESD 説明の手引き (PPT) を制作した
- ・事務局経由で講師派遣 16 件、原稿依頼 8 本を受け、理事等を派遣した

【成果】「ヤフージャパン」Links for Good を活用した一般ウェブ利用者に対する啓発広告の運用を開始。フェイスブックページでは 900 人以上の「いいね」を獲得するなど、会員外への情報発信に着手した。

III. 会議等

<総会>

通常総会 6 月 15 日 (土) 岡山大学

<理事会>

第 1 回理事会 5 月 18 日 (土) 立教大学太刀川記念館 会議室

第 2 回理事会 12 月 21 日 (土) 日能研西日暮里ビル 会議室

第3回理事会	3月23日(日)	日能研西日暮里ビル	会議室
<理事懇談会>			
第1回理事懇談会	5月18日(土)	立教大学太刀川記念館	会議室
第2回理事懇談会	8月22日(木)	東京ウィメンズプラザ	視聴覚室
第3回理事懇談会	11月10日(日)	日能研西日暮里ビル	会議室
第4回理事懇談会	12月21日(土)	日能研西日暮里ビル	会議室
第5回理事懇談会	3月23日(日)	日能研西日暮里ビル	会議室

IV. 会員、理事、事務局等

<会員> ※()内は2013年3月末の数

団体正会員	81 (89)	団体準会員	19 (22)
個人正会員	102 (125)	個人準会員	157 (181)
賛助会員	10 (8)	特別賛助会員	1 (1)
		連携交流団体	5 (5)

<役員等>

代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、壽賀一仁、杵本育生、鈴木克徳、関正雄、長岡素彦、名執芳博、竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森良、吉澤卓
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル

*役割

震災復興・地域再生支援	主な担当理事：小金澤孝昭、長岡素彦
学校と地域の連携によるESD推進	主な担当理事：池田満之、森良
地域におけるESD推進およびコーディネーターの社会化	主な担当理事：壽賀一仁、森良
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳、名執芳博
普及啓発・情報収集・提供	主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦
2014年、2015年以降に向けた準備	主な担当理事：阿部治、重政子、関正雄

地域担当理事：	【北海道】池田誠	【東北】小金澤孝昭
	【関東】森良	【北陸】鈴木克徳
	【東海】新海洋子	【近畿】杵本育生
	【中国】池田満之	【四国】竹内よし子
	【九州】三隅佳子	【沖縄】大島順子
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里	

<事務局>

事務局長(常勤)	・・・村上千里
スタッフ(常勤)	・・・長澤正嘉
(非常勤)	・・・飯島邦子、山本かおり、宮崎裕子
契約スタッフ	・・・野口扶美子、後藤尚味、大塚明